2023年俳ソサエティ「春季Skype句会」2023-4-22(土) 結果と寸評						
番号		作者	得　点			
			天	選	点	
1	栗毬の遺句しみじみと春の雨	きみ女	井・申		6	教え子諸兄姉が知らなかった側面のようで。
2	春の雨海峡を越え降る黄砂	井静			0	中七は働きが悪い。
3	花びらの真珠となりぬ春の雨	明陽		輪院	1	「花びらの」は「花びらに」として情景を描く
4	縦のもの横にもなさず春炬燵	双掌		明・み	2	「なさず」は「せずに」あるいは「せざる」？
5	裸から若葉もえたつビッグバン	荒人			0	「裸から」には違和感ありとの意見。
6	絵筆手にあなたの似顔春の雨	みほ女		荒人	1	一編の詩のごとき雰囲気漂う。
7	友見まひ胸うち流る春の雨	輪院		申山	1	「胸うち」は「胸中」とするか？
8	新緑や白寿に軽き「要支援」	きみ女		荒・み	2	「緑と白」の字面面白いが「軽き」の意味は？
9	春雷や異国のいくさの音に似て	井静	輪・き	双掌	7	「音に似て」は「音止まず」か「戦止みもせず」
10	杉花粉たつぷり着けて山笑ふ	申山	明陽		3	戦後の林業農政を嘲笑う。
11	春泥や孫らの靴の大いなる	双掌			0	「大いなる」はおかしいとの強い批判も。
12	若葉風すれちがふ人きみに似て	みほ女		双掌	1	「若葉風」は「薫風や」としてはどうか？
13	春雨のソフトなタッチ地は笑う	荒人			0	「ソフトなタッチ」は「くすぐられたか」とする
14	嬰児も落花にその手伸ばしをり	明陽	みほ女	井静	4	高齢になるほど赤子は可愛く思われるなぁ。
15	高嶺には季節戻りの春の雨	輪院			0	実景は「春の雪」だが･･･。
16	まだ客の来さう仕舞へぬ春炬燵	申山			0	中七を「来るやも知れぬ」としたら？
17	確執を越ゆるすべなく春炬燵	みほ女		きみ女	1	いささか難解な一句。
18	花繚乱いそぐ季節に我惑乱	荒人		申山	1	繚乱と惑乱の韻を味わえるか。
19	欅の芽路地をみどりに染めてゆく	井静		きみ女	1	平明で、ややドラマ性に乏しいか。
20	春炬燵仕舞ひて今日の肌寒さ	明陽			0	「季違い」ではないかと季語論争盛り上がる。
21	爺むさき猫背恥じよと若葉道	双掌		輪院	1	高齢者の僻み根性丸出しの恨み節か。
22	旧友の墓石尋ぬる若葉雨	きみ女			0	「訪ねる」ではないのかとの意見も。
23	清明節 春の雨合ひに来ました考妣(ちちはは)に	申山		明陽	1	「清明節」の前書きが効いている。
24	道草や夕餉の肴に野蒜摘む	輪院	荒・双	井静	7	字余りとなる「肴」でなく「菜」としては？

上位得点者

天賞（最多得点者）

毛里井静　　8点

春雷や異国のいくさの音に似て　　7点

欅の芽路地をみどりに染めてゆく　1点

笠原輪院　　8点

道草や夕餉の肴に野蒜摘む　　7点

友見まふ胸うち流る春の雨　　1点

安倍きみ女　　8点

栗毬の遺句しみじみと春の雨　　6点

新緑や白寿に軽き「要支援」　　2点

地賞（次点者）

櫻川明陽　　5点

嬰児も落花にその手伸ばしをり　　4点

花びらの真珠となりぬ春の雨　　1点

人賞（第3位）

笠原申山　　4点

杉花粉たつぷり着けて山笑ふ　　3点

清明節

春の雨会ひに来ました考妣に　　1点

【総評】

俳ソサエティの良き伝統となった披講→選者名乗り→作者当て→甲論乙駁という流れに乗って2時間半はあっという間に過ぎた。そしてまた、今回も「季語」をめぐる丁々発止の論争も浮上した。【春炬燵仕舞ひて今日の肌寒さ　明陽】の春炬燵は春だが、肌寒さは秋で「季違い」を来しているというのもその一環。実景としてこれらが競合しているときも春と秋の季語は併用できないのだろうかという問題が長々と論じられた。初心者はいうに及ばず、俳句を存分に楽しんできた諸兄姉にも奥深い設問であろう。

なお、句会終了時には例によって次回（夏季Skype句会）の日程として、7月29日（土）午後2時～5時半で合意をみた。なお、句会財源がほぼ消化されたため、年会費として各￥10,000を徴収すべく、メールで句会口座の番号などを連絡することが了承された。　【双掌記】